

# 3) 造船・航海等に関する調査

板井英伸<sup>1</sup>

キーワード：海洋文化、造船技術、サバニ、地域連携

## 1. はじめに

本事業では、地域と連携して沖縄を代表する木造漁船・サバニの造船・航海技術に関する調査・研究を行い、その保存・継承を支援することを目的として、令和3年度には前年に南城市玉城字奥武の奥武島造船所に依頼して建造したサバニの建造工程に関する記録を、地元公民館や沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）、海洋文化館での企画展・一般向け講座などの実施に活用し、ひろく一般に周知した。また、同サバニについては将来的な常設展示に向けて、令和5～8年度に海洋文化館で引き続き展示できるよう調整した。

## 2. 概要

令和2年度に建造した奥武島のサバニを引き続き海洋文化館で展示した。この展示延長に先立ち、本サバニに再度燻蒸処理を施したほか、令和9年度以降も継続できるよう調整を開始した（写真-1）。

また、海洋文化館において屋外展示されていたサバニ3隻について、その劣化状態について詳細に調査し、防虫処理を施して海洋文化館屋外収蔵庫に移動し、保存環境を改善した（写真-2,3）。

大宜味村、東村、本部町、南城市、糸満市においてサバニの造船・操船技術者を訪問し、サバニの建造および活用状況を記録した。その調査結果は適宜、取りまとめ、撮影した写真・動画等成果物を地域の自治会・公民館に提供して、各地で活用していただいたほか、引き続き講演用テキストの作成に活用した（写真-4）。

また、令和4年度に引き続き糸満市教育委員会からの委嘱を受けて文化財保護審議委員に就任し、漁具一式の文化財指定に向けた資料リストの監修作業を行った。加えて3月には同教育委員会によるサバニ建造技術の文化財化に関する検討会にも参加した。



写真-1 海洋文化館での奥武島のサバニ展示状況

## 3. 成果

海洋文化館を拠点としたサバニ製作者・使用者のネットワークを構築し、財団管理施設への誘客を促進できた。また、その建造技術の継承に貢献した。加えて展示会開催や文化財化、新たな利用方法の提案などを通して、観光業などに寄与した。



写真-2 屋外展示サバニの防虫作業



写真-3 同保管状況

<sup>1</sup> 企画運営課

## 民俗文化財(漁撈具等)調査票【表】

番号・記号	R4造船道具1
ふりがな	しみちぶ: かるこ
名称	シミチブ(墨委)+軽子
員数	11。(墨車のみ2)
種別	針測道具
用途	シミチブ: 部材に印(線)を入れる道具、軽子: 墨糸を張る道具
年代	
作者	
寸法・重量	墨委: 全長21cm, 幅9.5cm, 高さ6.5cm, 軽子: 全長11.5cm, 径1cm, 針の長さ3cm
品質・形状	墨委: 木製、丸い墨池の後ろに墨車が付く、廻手は欠損。墨池に鶴と亀の彫り物。軽子: プラスチック製、針は鉄。
伝来・その他参考となるべき事項	
所在地	糸満市西崎町一丁目4-11
保管施設の名称	糸満海人工房・資料館
所有者	
備考(所有者の入手方法等)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             この墨車はリストラで作成              の別添でも可。         </div>

糸満市教育委員会教育部生涯学習課文化振興係

写真-3 糸満市文化財保護委員会資料監修状況

## 4. 外部評価委員会コメント

沖縄の伝統木造船サバニの造船に関する知識・技術の記録化とその保存に関する調査研究を長年にわたり行ってきている点は高く評価できる。近年に船大工によって建造されたサバニは、海洋文化館に展示するとともに燻蒸処理により長期保存を可能にしている。また、海洋文化館の屋外展示のサバニに関しても防虫処理を施して収蔵庫に移動し保存環境の改善を実施したことは評価される。(須藤顧問：堺市博物館館長)

サバニ製作の現状と資料の記録について成果が上がっているように思われる。各地の自治体や公民館などでも資料提供の依頼があるということだが、具体的にどのような使われ方をしたか、またその要望内容について何かの形でご報告願いたい。(後藤顧問：南山大学教授)



写真-4 講演会テキストへの調査成果の使用例